

港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園 1-5-25/TEL 03-3578-2049/<https://www.city.minato.tokyo.jp/>



今号の表紙

行楽客を満載して第三台場（台場公園）に到着した渡船「うらしま丸」。対岸の埋立地と陸続きになる前、第三台場へは竹芝から船で行く必要がありました。昭和30年代の一時期、港区は第三台場にキャンプ場を開設し、また当時はハゼ釣りや納涼船も楽しめたため、人気のレジャースポットでした。



目次

- Pick Up 資料編編さん中 安永手書江戸大絵図・・・P2
 監修者会議を開催しました・・・P2
 古代・中世部会を開催しました・・・P2
 資料編編さん中 麻布本村町会資料・・・P3
- Zoom Up 通史編現代 刊行しました・・・P4

令和5年刊行予定の資料編では、時代ごとに港区に関わる史料を収録する予定です。

このコーナーでは、現在鋭意編さん中の、資料編の内容についてご紹介します。

近世資料編には附録DVDがつきます。そのなかには、通史編でも掲載された絵図類のほか、「安永手書江戸大絵図」という巨大な江戸図が入ります。今回はこの「安永手書江戸大絵図」の一部を紹介します。

この江戸大絵図は、隅田川を境にして御府内とその周辺部を描いた「乾（けん）」と、隅田川以東の「坤（こん）」があります。乾は9枚、坤は6枚に分割されており、これらをつなげると乾は3390 × 5550 mm、坤は1300 × 1850 mmの大きさになります。縮尺は約1 / 2700。絵図の内容から、安永8年（1779）頃の江戸を描いたものと推測されています。

全体は大きな絵図ですが、屋敷地にはそれぞれ名前が書き込まれており、町名は場所によって非常に細密に書かれています。

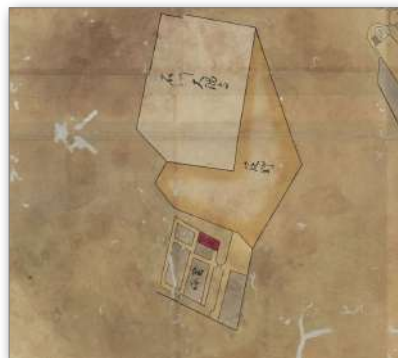
※絵図はすべて上が北です。



江戸城
すべての城門の名前が記されています。お堀や土手も色分けされています。



泉岳寺周辺
泉岳寺の前の道は現在の国道15号です。当時は海に面していました。



佃島
坤図の一部です。佃島は漁師町で、徳川將軍家へ納めるための白魚漁を行っていました。

近世資料編のDVDには「安永手書江戸大絵図」のトレース図も入ります。ぜひご覧ください。

監修者会議、古代・中世部会を開催しました

監修者会議

令和5年1月5日 開催 資料編の構成について確認しました。

古代・中世部会

令和4年12月27日 開催 資料編の構成やスケジュールなどを確認しました。

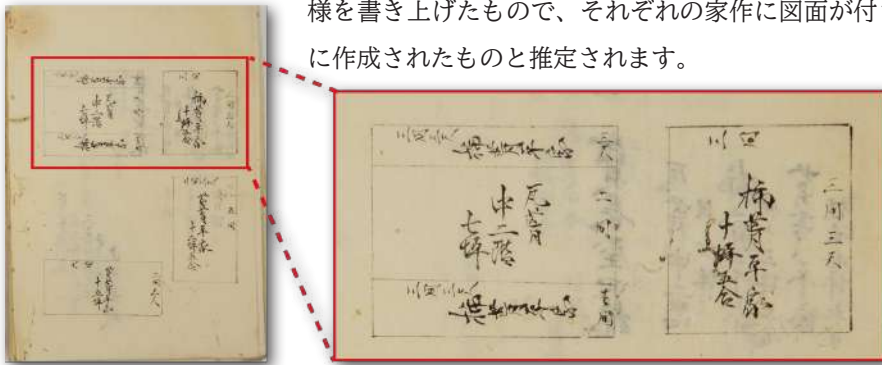
近世につづいて、近代史料のご紹介です。

近代では、令和刊行『港区史』の調査で新たに見つかった、「麻布本村町会資料」を掲載する予定です。

麻布本村町は現在の南麻布・元麻布のそれぞれ一部に当たります。「麻布本村町会資料」は、幕末から第二次大戦直後にかけての麻布本村町の景観や住民による自治の状況を詳細に知ることができる、極めて貴重な史料群です。『港区史編さんだより』第5号・第6号でも取り上げていますので、ぜひそちらもご参照ください。

■麻布本村町の家屋の調査記録——「家作調書」

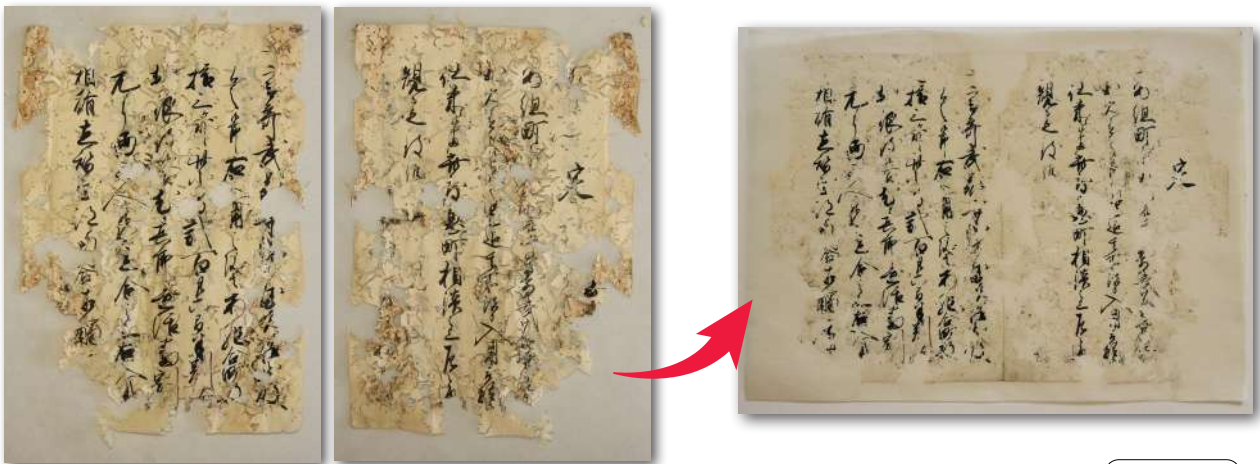
「家作調書」は、家作（家屋）の所有者、所在地、面積（建坪）、屋根の葺き方などの仕様を書き上げたもので、それぞれの家作に図面が付されているのが特徴的です。明治初期に作成されたものと推定されます。



当時の家屋は平家が多かったものの、二階建築もみられます。屋根は瓦葺のほか、柿（こけら＝薄い木板）葺、茅葺などがあり、複数の家作を所有する家主も存在していたことがわかります。

■破損した史料を修復——「町内記録帳」

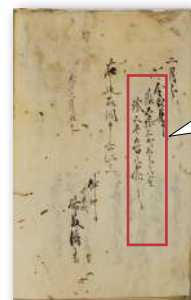
古い史料には劣化して状態が良くないものも少なくなく、そのままでは調査研究が困難であるばかりか、今後更に劣化が進行して、貴重な記録を将来に残し伝えていけなくなる可能性があります。町内自治に関する取り決めや金銭の出入りなどを書き留めた「町内記録帳」も、虫喰いなどの破損が深刻な状態でした。そこで区史編さん事業にあたり、料紙（史料の書かれた用紙）の裏に薄い和紙を貼り付けて補強する「裏打ち」により補修しました。



■江戸時代の三貨制度がわかる——「諸書上留」

現在、日本の通貨は「円」ですが、江戸時代から明治初期までは金貨・銀貨・銭貨と3種の通貨が流通していました。そして、これら3種類の価値は一定ではなく、特に幕末期は相場が激しく変動しました。

幕末維新期の麻布本村町会資料にも、金銭の出入りに関する記録が多く見られますが、やはり金・銀・銭の3種類の通貨が併用されていることがわかります。



金式分ト
銀五拾三匁九分八厘
銭八貫九百八拾文



港区の七十余年にわたる戦後史を記述しています。上巻では主に港区誕生の経緯、区政、人口、コミュニティ、中巻では財政、まちづくり、環境、防災、産業、下巻では労働、衛生、福祉、教育、文化、国際といった分野を取り上げています。また、上巻では町名の変遷やそれぞれ地域ごとの移り変わり、下巻では新型コロナウイルス感染症への対応、昭和39年と令和3年の東京オリンピックも扱っています。



通史編 現代 (上・中・下)

A5判 | 口絵カラー | ソフトカバー |

上: 404 ページ 中: 408 ページ 下: 340 ページ

■ 販売場所 ■ 価格 各巻 3,000 円

港区役所 区政資料室

麻布地区総合支所 赤坂地区総合支所

高輪地区総合支所 芝浦港南地区総合支所

港区立郷土歴史館

港区立の各図書館でもご覧いただけます

芝区・麻布区・赤坂区が合併した港区は、昭和22年3月15日に誕生し、戦後復興、高度経済成長により急速に発展していきました。

一方で昭和の後半に入ると、郊外への住民転出や地価高騰による人口減が顕著になり、財政も深刻な危機を迎えます。

こうした状況を打開するため、定住人口の確保に向けた対策や大胆な行政改革を次々と断行し、現在では首都・東京の中核都市、世界有数の国際都市としてさらなる成長を続けています。

こうした軌跡を踏まえ、行政の分野ごとに時系列で記述するとともに、港区がその時々、どのような取組を行ってきたのかがわかる構成にしています。

『港区史』好評販売中!!



◆ デジタル版『港区史』 ◆

「デジタル版 港区のあゆみ～港区の歴史を今と未来に伝えるデジタルアーカイブ～」にて公開中!

令和に刊行する『港区史』は、インターネットでも公開しています。

どなたでも、どこにいても

『港区史』やその関連資料を閲覧することができます。



<https://adeac.jp/minato-city/top>



▲デジタル版
港区のあゆみ



■ 編集後記

通史編現代が刊行し、ついに原始から現代までの港区の歴史を読むことができるようになりました。いよいよ『港区史』編さんも大詰めを迎えています。次回刊行の資料編は、通史編では扱いきれなかった港区に関する史料を多数収録予定です。今号でもご紹介した「安永手書江戸大絵図」の巨大トレース図や、この区史編さんで新たに調査した「麻布本村町会資料」など、貴重な史料が盛りだくさんの内容です。どうぞ、お楽しみに。